

お米と私

羽生市立川俣小学校 四年
奥野大志

ぼくには毎日の仕事があります。それは、お母さんが帰るまでにお米をといでおくことです。

この仕事は、お兄ちゃんから引きつぎました。お兄ちゃんはその上のお兄ちゃんから引きつぎました。お兄ちゃんが中学生になって帰りがおそくなったので、今はぼくの仕事になりました。

お米はお兄ちゃんに教わったようにといています。一番最初の水はすぐにすてること。水がにこらなくなるまで何回もすぐのこと。お米が新しい秋は、水は少なめでたくこと。そうすると、おいしくつやつやのご飯になるそうです。教えてもらったことを思い出しながらといています。

時々、お米をたくさんこぼしてお母さんに「もったいない。」とおこられることもあります。でも上手にたけていると、みんながほめてくれます。お父さんは、

「今日のご飯はおいしいよ。水かげんがちょうどいい。」とほめてくれます。そういう日のごはんはみんながたくさんたべてくれます。水かげんがちょうどよかったり、たき上がりの時間がおかずのでき上がりといっしょだったりすると、ぼくもうれしくなります。

ぼくにはお兄ちゃんが二人います。三兄弟なので、ご近所の人に

「お米がすぐになくなるね。」とよく言われます。その通りで、毎食たくさんのお米をたきます。家ぞく全員ご飯が大好きです。特に二人のお兄ちゃんが大のごはん好きで、何回もおかわりをします。食べるのも早く、ぼくがおかわりをしようと思った時にはもうないことがしばしばです。

たきたての白いごはんは、それだけでとてもおいしいです。ぼくは時々しおをかけただけで食べることもあります。しおのしょっぱさで、ご飯があまくかんじられ、とてもおいしいです。

またごはんはお母さんが作るどのおかずともよく合います。からあげ、ぎょうぎ、ごはんがすすんでまってしまう。ぼくたち三兄弟はバクバクご飯をたべて幸せな気分になります。

白いつやつやのごはんはおなかをみたしてくれるだけでなく、気持ちも満足にしてくれるようです。始めはめんどうくさいと思っていましたがぼくはお兄ちゃんから引きついだ仕事が好きです。